

番組審議委員会議事録

株式会社 衛星劇場

1. 開催年月日 平成15年10月14日（火） 12:00～13:00
2. 開催場所 株式会社 衛星劇場 会議室
3. 委員の出席 委員総数 7名
出席委員数4名（堀江ミエ子、田中康義、品田雄吉、小山観翁）
欠席委員数3名（山内静夫、伊藤信太郎、中村芝翫）
4. 放送事業社側出席 7名（石川富康[代表取締役・社長]、工藤泰之[専務取締役]、山崎克己[取締役・編成担当]、長谷川一郎[取締役・営業担当]、中川滋弘[製作部長]、深田誠剛[編成部長]、尾崎誠[編成次長]）
5. 議事の概要
 - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの現状報告
 - ・その他
6. 議事内容
 - 現状報告
 - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの現状
 - ・上記加入者に関する分析の報告
 - 今後の放送予定と出資作品
 - ・衛星劇場の出資作品の説明

(議事詳細)

石川社長 : 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

では、衛星劇場の現状から説明させていただきます。

スカパー、ケーブルとも視聴者の加入状況は厳しいものがあります。映画ソフトの枯渇も続いています。新しいソフト確保のため、昨年は16作品に出資しましたが、話題作品ばかりではありません。旧作も今ではいろいろなチャンネルに出てしまうので、お客様からすると、どこのチャンネルというよりは、あの作品がまた放送されているという感じを受けます。このあたりをもう一度見直していかなければと思いますが、なかなか難しいのが現状です。

では、各チャンネルの説明をお願いします。

山崎取締役 : 今まで衛星劇場の放送形態は、一月のみの放送でしたけど、8、9月と『ロード・オブ・ザ・リング』を2ヶ月に渡って放送しました。また9月には『座頭市』の放送を、リピートなしの1回だけで放送をしてみました。再放送がないので、お客様からの苦情は多いかと思っていましたが、思ったよりも少なかったです。それよりも、一挙放送ということの方が、お客様としても魅力があったのではないのでしょうか。10月にも引き続き『必殺』の9作を一挙に放送しています。このように特集を組んだものの一挙放送という形をこれからは取っていくことも話題性があっていいと考えております。

尾崎次長 : ホームドラマチャンネルは、リピート放送が多くなってきていますので、これからは新作を増やしていきたいと思っております。その中でも韓国ドラマの放送の反響が大きいですので、そのブームに乗って沢山の作品を放送していきたいと思っております。また12月よりホームドラマチャンネルも24時間放送にしますので、今後ともよろしく申し上げます。

石川社長 : 『冬のソナタ』のペ・ヨンジュンの人気すごいですので、彼が過去に出演したドラマ『愛の群像』を12月より衛星劇場で放送していくことが決まりました。邦画で足りない部分を韓国のドラマで補っていきたくと思っています。

中川部長 : 製作の話をさせていただきます。『猟奇的な彼女』が韓国、『北京ヴァイオリン』が中国と、アジア映画に活気があります。先日、『ゲロッパ』を持って、第 8 回釜山映画祭に行きまして、活気があって出品数もかなりの数でした。これからのアジアの市場が楽しみだと思えるような映画祭でした。映画ではありませんが、うちのチャンネルでしか見ることができない独自のドラマを放送していく予定です。著作権もこちらで保有していくような形をとっていきたいと思っています。タイトルは『念珠』です。大ヒットした『呪怨』の流れを受けています。来年の春以降の放送を予定しています。松竹以外の作品、例えば『ミスター・ルーキー』のような作品にも出資していればいいですが、松竹作品で大ヒットが出るのが一番望ましいことです。視聴料収入が一番のメインになればいいのですが、出資の配分金収入で大きな収入を得ることもあります。『呪怨』『黄泉がえり』のように 1 の出資で 5 0 返ってくるような作品に出資できればいいですね。

堀江委員 : ケーブルテレビ側としては、PPV も見据えた方法でやっていくことを考えています。全体の加入の伸びはとても悪いのですが、その中でも衛星劇場はいいほうだと思います。そういったことを考えると、チラシに載せる写真などにもさらに気を配っていくといいと思います。例えば『必殺』で山田五十鈴が出演している作品がありますが、写真もそういうものを使うほうがいいのではないのでしょうか？『必殺』の山田さんは存在感はすごいものがあります。そういったことで、お客様の気を引くことが出来ますからね。ちょっとしたことですけど、そういうことにも気を遣っていくことが大事ではないでしょうか。またコミチャンで放送する場合、著作権（版權）の問題で何かしらの処理を、例えば衛星劇場のロゴを載せたものにするような方法をとれば放送も可能ではないでしょうか。

石川社長 : ご指摘の点は、検討していきたいと思っています。細かいことですが、そういうことから、お客様の目を引くような番組を提供できればいいですね。
田中委員、何かございますか？

田中委員 : 松竹蒲田撮影所が大正 9 年に始まりましたが、その翌年に作られた伊藤大輔

脚本の『酒中日記』のフィルムが見つかりました。まだどの程度の保存状態かはわかっていませんが、ちゃんとした形で残っているのなら、初めにNHKなどで放送するのではなく、衛星劇場で放送していけばいいですね。こういったことは話題性があるので、やらないのはもったいないです。

石川社長 : そうですね、そういった古い作品が発見されたのなら、ぜひうちで放送していきたいですね。NHKをはじめ、民放に小津作品や寅さん、釣りバカを放送されるのは、有料チャンネルとしてはとてもつらいことです。

小山委員 : お客様のリクエストに応えることは、視聴者が参加している形になっているのではないのでしょうか。多チャンネル化になり、そういったちょっとしたことが、やはり重要になっていくと思います。

品田委員 : ジュピター系のチャンネル、WOWOWの番審もしていますが、今はどこのチャンネルも大変な時期になってきています。生き残り作として、お金を出して映画を作る（出資する）ということが武器になってくるのではないのでしょうか。映画を作ることは資産になります。コツコツと作っていくことは、とても意味があると思います。大当たりがいつか来ることを見込んで、これからも出資していくことが大事ではないのでしょうか？韓国と共同してやっていくことは、難しいところがあると思います。というのも向こうの市場では良くても、日本の市場に来た時に、利益がうやむやになってしまうことがあるからです。

石川社長 : 今後とも衛星を取り巻く環境は、一段と厳しくなっていきますが、審議委員の方々の貴重なご意見を活かして、より一層頑張っていきたいと思いますので、何卒よろしく願いいたします。

7. 審議期間の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特になし

8. 審議期間の答申又は意見の概略を公表した場合におけるその公表内容、方法及び月日

特になし

9. その他の参考事項

特になし